第 13 回 FD 講演「バリ舞踊の表現法について」　　2013.11.6　18:30-20:30

インドネシア国立芸術大学デンパサール校より舞踊科教授（学科長）のイ・ニョマン・チェリタ氏を招聘し、バリ舞踊の表現法についてご講演いただきました。バリ芸能やインドネシアに所縁のある方々も多くみえられていたせいか、英語で用意されていた講演は、自然とインドネシア語となり、結果的に、インドネシア語での講演、英語のパワーポイント、日本語通訳の 3 か国語を用いての講演会となりました。また、ガムラン演奏者が楽器を持ってかけつけてくれたおかげで、音楽と舞踊のやりとりの説明も実演により行なわれました。翌日 7 日にワークショップをしていただいた、イ・グスティ・パルティニ氏も女性舞踊「レゴン・ラッサム」の実演をしてくださいました。1 時間半のデモンストレーションを含む盛りだくさんの講演の後、30 分の質疑応答を行いました。

バリの舞踊にはかかせない 9 つの表情の表現は、タクスという内なる力から生み出されます。内側からの表現がなければ、表向きだけの表情を作っても、何も伝わりません。そして、それらの内なる力は、地面から脚を通して地霊のエネルギーを身体にとりこみ、天からは頭を通して天界の神のエネルギーを受けとり、それらを身体の中に巡らせることにより生まれるということです。そして、そのエネルギーの一部が、指の動きとなって現れます。質疑応答で、指の動きの意味についての質問が出ましたが、指が常にかすかに揺れているのがバリ舞踊の特徴で、これが動いているということは、生きている（エネルギーが巡っている）ということであり、踊りにとって、とても重要なことだということでした。

バリでは、まだまだ伝統的な舞踊のほうが人気があり、新作の創作も伝統的な舞踊の動きを使って行われることが多いそうです。いわゆる、西洋のコンテンポラリーダンスのような動きを使った作品は、まだあまり受け入れられません。また、舞踊の著作権も曖昧であり、氏の作品である「サティオ・ブラスタ」なども、氏の許可なく演じられることが多いそうです。しかし、氏は、今は、舞踊創作の発展のためにも、多くの人に踊ってもらうことのほうが大切であると考えているということでした。

写真例

お茶の水女子大学 Ochanomizu University

左から、パルティニ氏、中谷氏（通訳）、チェリタ氏

チェリタ氏デモンストレーション

パルティニ氏デモンストレーション、演奏付き

みんなで指を反らせて揺らしてみました

お茶の水女子大学
Ochanomizu University